

学習指導案形式例【特別活動 学級活動（２）】

第３学年○組 学級活動（２）指導案

指導者 ○○ ○○

学級活動（２）の指導案は、活動内容の「（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の特質を踏まえて作成します。例えば、「児童に共通した問題であるが、一人一人の理解や自覚を深め、意思決定とそれに基づく実践を行うものであり、個々に応じて行われる」（『小学校学習指導要領解説 特別活動編』）という特質があります。指導案では、題材に関わる児童の実態を明らかにし、教師の指導観などについてまとめ、児童生徒が自己の課題として真剣に捉え、具体的な実践目標や方法などを意思決定できるように展開を工夫します。

学級活動（２）の指導案に示す内容としては、学習過程に照らし以下（１）～（３）が考えられます。

- （１） 問題の発見・確認
○題材、児童の実態と題材設定の理由、育成を目指す資質・能力、事前指導
- （２） 解決方法等の話し合い、解決方法の決定
○本時のねらい、指導過程、使用する教材・資料
- （３） 決めたことの実践、振り返り
○事後指導、評価の観点

1 題材「バランスのよい食事」

学級活動（２） エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

年間指導計画を基に、題材を設定します。その題材がどの内容なのかを明記します。学級活動（２）内容の符号（ア～エ）とその「内容項目」を記述します。

- 学級活動（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- ア 基本的な生活習慣の形成
 - イ よりよい人間関係の形成
 - ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
 - エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材について

（１）児童の実態

元気で明るい学級である。給食の時間には友達と会話を楽しみながら和やかな様子が見られる。好きな給食のメニューが学級新聞の記事として取り上げられるなど、給食の時間を楽しみにしている児童が多い。しかし、献立によっては食べ残しが目立ち、給食についてのアンケートでも、好き嫌いが「とてもある」「ある」と回答した児童が多かった。

児童の学級生活における実態や、学級活動における実態などについて記述します。

（ポイント）

- ・今年度の学級目標
- ・児童生徒の学級生活における実態と特別な配慮を要する児童生徒への支援
- ・題材に関する学級集団の実態（意識調査等）

(2) 題材設定の理由

今回、栄養のバランスについて考えることで、偏食は健康を損なうということに気付き、今までの食の傾向について見直し、健康な体をつくるためにはどのように食習慣を改善すればよいのかを考える機会としたい。学校栄養職員と連携を図り、給食の献立は栄養のバランスを考えてつくられているということや、野菜の栄養と体の健康の関係について説明することにより、苦手な食べ物があっても少しずつでも食べようとする意欲を高め、実践化を図れるようにしたい。

- ・題材設定の理由
- ・評価との関わりについて、学習指導要領での位置付けを示し、本題材を通してどのような児童生徒が育つと考えているか（題材の価値）を記述する。

3 評価規準

第3学年及び第4学年の評価規準

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活上の課題に気付き、多様な意見を基に、自らの解決方法を意思決定し、実践している。	自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりしている。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
アンケートに記入する	給食のよいところや、給食の食べ方をもっとよくしたいところについて考えるように知らせる。	アンケートを記入し、これまでの給食の食べ方などについて考えることができる。
アンケート結果を表にまとめる	アンケート結果を分かりやすくまとめ、学級としての実態をつかむようにする。	(思考・判断・表現) 【アンケート】

5 本時のねらい

好き嫌いをしないでバランスよく食べることの大切さについて理解し、自分に合った具体的なめあてや方法を決めることにより、自分自身の健康について考えて行動するための動機付けとなるようにします。「本時のねらい」には、自他の関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのかの指導のねらいを端的に記述します。

- ・チームティーチングの場合には、指導する上でのそれぞれの役割を明確にするために、T1、T2の役割を明確に示します。特にT2の役割や指導内容について事前にしっかりと打合せを行い、学年や発達の段階に即して指導内容の重点化を図り、指導の効果が十分に高められるようにします。
- ・また、内容に応じて次のような人材の活用を考えて、指導計画を作成します。
○養護教諭 ○栄養教諭 ○学校栄養職員 ○司書教諭 ○学校図書館司書など

6 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点 (○) と評価 (☆)	資料
導入 (つかむ)	1 好きな給食の献立について話し合う。 2 給食についての事前のアンケート結果を見て気付いたことを話し合う。	○好きな献立ランキングを発表し、人気のある献立について確認することで、児童の給食への興味・関心を高める。 ○アンケート結果から、学級全体の課題としてだけでなく、自分の課題として捉えることができるようにする。	アンケート結果の集計
展開 (さぐる) (見つける)	3 野菜に含まれる栄養の大切さについて知る。 4 好き嫌いのない食事のとり方の工夫を話し合う。	○野菜に含まれる栄養と健康に関し、発達の段階に合わせて内容を重点化した資料を用意したり、自身の体験を話したりして、児童の興味・関心を高めるようにする。 ○実践方法について話し合う過程で、自分なりの工夫を考えることができるようにする。 ○今まで食べられなかった野菜を食べられるようになった経験を持つ児童を意図的に指名するなど、いろいろな工夫が出せるようにする。 ☆自分の体の健康と野菜に含まれる栄養との関わりについて理解している。 (知識・技能)【発言・学習カード・観察】	栄養に関する資料 学習カード
終末 (決める)	5 話し合ったことを参考にして自分のめあてや実践方法を決める。	○自分の課題に合った具体的なめあてや実践方法を決めて学習カードに記入するようにする。 ○机間指導を行い、必要に応じて、具体性のあるめあてや実践方法が設定できるように助言を行う。 ○何人かに発表してもらい、めあての修正や実践の参考にできるようにする。 ○1週間程度実践し、自己評価できるようにする。 ☆自分の課題に合った具体的なめあてや食べ方を決めている。(思考・判断・表現)【実践カード、観察、発言】	実践カード

6 本時の展開（ティームティーチングで指導する場合）

	児童の活動	指導上の留意点		資料	目指す児童の姿と評価方法
		T 1（学級担任）	T 2（栄養教諭）		
導入（つかむ）	1 好きな給食の献立について話し合う 2 給食についての事前のアンケート結果を見て気付いたことを話し合う。	- 好きな献立ランキングを発表し、人気のある献立について確認することで、児童の給食への興味・関心を高める。 - アンケート結果から、学級全体の課題としてだけでなく、自分の課題として捉えることができるようにする。		アンケート結果の集計	
展開（さぐる）（見つける）	3 野菜に含まれる栄養の大切さについて知る。 4 好き嫌いのない食事のとり方の工夫を話し合う。	今まで食べられなかった野菜を食べられるようになった経験を持つ児童を意図的に指名するなど、いろいろな工夫が出せるようにする。	- 野菜に含まれる栄養と健康に関し、発達の段階に合わせて内容を重点化した資料を用意したり、自身の体験を話したりして、児童の興味・関心を高めるようにする。 - 実践方法について話し合う過程で、自分なりの工夫を考えることができるようにする。	栄養に関する資料 学習カード	自分の体の健康と野菜に含まれる栄養との関わりについて理解している。（知識・技能） 【発言・学習カード】

終末 (決める)	5 話し合ったことを参考にして自分のめあてや実践方法を決める。	- 自分の課題に合った具体的なめあてや実践方法を決めて学習カードに記入するようにする。 - 何人かに発表してもらい、めあての修正や実践の参考にできるようにする。 1週間程度実践し、自己評価できるようにする。	・机間指導を行い、必要に応じて、具体性のあるめあてや実践方法が設定できるように助言を行う。	実践カード	自分の課題に合った具体的なめあてや食べ方を決めている。 (思考・判断・表現) 【実践カード、観察、発言】
-------------	---------------------------------	---	---	-------	--

7 事後の活動

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
- 自分の立てためあてや取組などについて振り返る。 - 友達同士で取組を確認し合う。	- 給食のよいところや、給食のよりよい食べ方について考えるように知らせる。 - 帰りの会などを利用して、友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いのがんばりを励まし合うことにより、実践の継続を図るようにする。	友達の意見を参考にしながら、どのように生活に生かしていきたいかを考えて立てた具体的なめあてや実践方法に、進んで取り組んでいる。 (思考・判断・表現) 【めあてカード、観察】

- 定期的に振り返りの時間を設け、実践意欲の継続化を図ります。学年だよりや学級だより等を通して家庭と連携し、日常生活での意識化を図ります。
- 意思決定し、1週間実践したことの成果を自己評価したり友達と認め合ったりして、実感できるようにします。

【引用文献】

- 国立教育政策研究所「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編」平成30年12月
- 国立教育政策研究所「学校文化を創る特別活動（中学校・高等学校編）」令和5年3月
- 国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動
令和2年3月
- 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 平成29年7月